



各 位

2022年4月4日

会社名 株式会社イオンファンタジー
 代表者名 代表取締役社長 藤原 徳也
 (コード番号 4343 東証プライム市場)
 問合せ先 常務取締役 管理統括兼
 リスクマネジメント担当 井関 義徳
 (電話 043-212-6203)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表執行役社長 吉田 昭夫
 (コード番号 8267 東証プライム市場)

業績予想の修正及び特別損失（関係会社出資金評価損及び関係会社
 株式評価損）の計上に関するお知らせ

2021年10月6日に公表いたしました2022年2月期の連結業績予想及び個別業績予想につきまして、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また当社個別財務諸表において関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想について

(1) 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	60,000	△2,520	△3,000	△4,150	△209円99銭
今回修正予想 (B)	60,170	△3,410	△3,390	△4,530	△229円20銭
増減額 (B-A)	170	△890	△390	△380	
増減率 (%)	0.3%	—	—	—	
(ご参考)前年同期実績 (2021年2月期)	46,116	△7,429	△7,719	△9,277	△469円51銭

(2) 2022年2月期の個別業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	50,500		△950	△3,150	△159円39銭
今回修正予想 (B)	50,410		△1,010	△5,525	△279円54銭
増減額 (B-A)	△90		△60	△2,375	
増減率 (%)	△0.2%		—	—	
(ご参考)前年同期実績 (2021年2月期)	38,227	△6,079	△5,958	△8,794	△445円08銭

(3) 修正の理由

(連結)

2022年2月期において、中国は9月・10月とほぼコロナ前水準まで売上は回復いたしましたが、第4四半期に入り新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い政府規制強化の影響により売上高が低下いたしました。国内の緊急事態宣言は9月末に解除され、以降売上は順調に回復しておりましたが、2022年1月のオミクロン株による感染拡大の影響により客数が減少し、売上高が低下いたしました。アセアンは、下半期において想定より店舗の営業再開が早まり、第4四半期連結会計期間では営業利益が黒字になりました。

そうした中において、国内事業は2021年12月の売上高一昨年既存比（曜日要因調整後）は102.1%と2019年水準を上回る売上を確保いたしました。またオンラインクレーンは売上高昨年比を超え、プライズ部門はコラゴ景品やエクスクルーシブな景品を積極的に展開し、下半期の売上高一昨年既存比は100%を超過しております。国内事業は第4四半期連結会計期間で営業利益が黒字になりました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高は想定為替レートが修正業績予想時より円安に働いたことにより、海外子会社の売上高が増加し、前回予想を上回りましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が各々前回予想を下回る見込みとなりました。

(単体)

売上高・経常利益は、ほぼ計画通りで推移いたしましたが、当期純利益は期末に関係会社出資金評価損等を約26億円計上したことにより前回予想を下回る見込みとなりました。

2. 特別損失（関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損）の計上（個別）

当社が保有する連結子会社への出資金について、帳簿価格に対して実質価格が著しく下落し、当面の回復が難しいと判断したため、減損処理を行い、この結果個別決算において関係会社出資金評価損2,461,671千円及び関係会社株式評価損131,413千円を特別損失に計上いたしました。なお、当該関係会社出資金評価損及び関係会社株式評価損につきましては、連結決算においては消去されるため、連結業績への影響はございません。

※上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上